



【お知らせ】

令和5年1月17日
統合幕僚監部

統合幕僚長の米国訪問について

統合幕僚長山崎幸二陸将は、令和5年1月11日（水）から14日（土）にかけて、米国ワシントンD. C. を訪問し、1月13日（金）（現地時間1月12日（木））米統合参謀本部議長ミリー陸軍大将と会談を行いました。

会談では、統合幕僚長からミリー議長に対して、先月策定された国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び防衛力整備計画について説明しました。その上で両者は、戦後、最も厳しい安全保障環境の中において、日米同盟はかつてないほど強固であり、インド太平洋地域の平和と安定の礎であり続けるとともに、我が国の安全保障の基軸であるとの認識を改めて確認しました。また、日米共同による抑止力・対処力をより一層強化するため、我が国自身の防衛力の抜本的強化を踏まえ、様々な分野における日米防衛協力をより一層拡大・深化させていくことで一致しました。

統合幕僚長は、訪問期間中、ミリー議長との会談に加え、陸軍参謀総長マッコンビル陸軍大将、海兵隊総司令官バーガー海兵隊大将、空軍参謀総長ブラウン空軍大将とそれぞれ会談を行いました。

マッコンビル陸軍参謀総長との会談においては、領域横断作戦能力の強化を含む実践的訓練の推進について意見交換しました。

バーガー海兵隊総司令官との会談においては、地域における海兵隊の重要性について認識を共有するとともに、統合レベルでの日米連携強化について意見交換しました。

ブラウン空軍参謀総長との会談においては、北朝鮮による一連のミサイル発射を含む厳しい安全保障環境について認識を共有し、自衛隊と米空軍が緊密に連携して対応していくことで一致しました。